

インクルーシブなアートイベント「ぽよぴんアート2019」開催

10月5日(土曜日) 14時～18時15分 東京都千代田区・麴町中学校にて



全国の医学部・医科大学の学生や医療関係者による非政府組織(NGO)団体「IFMSA-Japan」と、ダウン症への理解を促進するためのNPO団体「アクセプションズ」は、ワークショップファシリテーターにアーティストの中津川浩章氏を迎えて、障がいのある子ときょうだい、そして障害とこれまで接点のない子どもたちが一緒にアートを作るイベント、「ぽよぴんアート2019」を開催いたします。

本イベントの特徴は、医学部の大学生ら、医学生が企画、運営することです。障がいを持つ方々と関わりが密接である医療現場に将来立つ身として、障がいへの理解は必須の領域であります。学生の間はその理解を深めておく必要があり、その知識や経験を将来の診断治療に生かすだけではなく、社会へと発信する力も養っていきたいと考えております。

第1部では、アーティストの中津川浩章氏を講師に招き、社会の礎となる子どもたちが、障がいの有無にかかわらず一緒にアートを作り出します。具体的には、昨年に障がいのある子どもらが描いた大きな一枚の絵を切り貼りし、「ワンダーランド」をイメージとした作品を作り上げていきます。完成した後には、中津川氏によるフィードバックが行われ、参加者が感想を述べます。医学生もこの一連の創作活動に参加することを通じて、障がいの有無にかかわらず、互いの違いや困難、そして良いところを知り理解する。その結果として、インクルーシブな世界を考え、ダイバーシティ社会に繋がっていくことを目指します。

第2部は、医学生とダウン症のある子どもたちとの交流会です。

第3部は、ダウン症のある子の親と、医学生との交流会となります。いずれも、障がいへの適切な理解を知識として身につけるだけではなく、障がいのある当事者から医学生が直接学ぶ、という場にしたと考えております。

現在日本では、障がい者に対する知識、理解が不足している状況があります。発達障がいを含む精神障害への偏見。十分な議論も行われず、理解が深まらないままになし崩し的に進められてきた新型出生前診断(NIPT)。差別と偏見から起きてしまった、相模原障がい者施設での殺傷事件。そして差別を恐れ、公表されなかった入所者の名前。

私たちは今回のイベントを通して学んだ知識を元に、他の学生や市民の理解向上、偏見や差別是正のために活動をします。報道各社様におかれましては、多忙なかだと思われませんが、ぜひ現地におこしいただき、活動の様子を取材していただきたく、お願い申し上げます。

取材に来ていただく際には、事前にメールにてご連絡をいただければ幸いです。

●お問い合わせ先:

IFMSA-Japan 滝沢章 poyopin@ifmsa.jp

NPOアクセプションズ info@acceptions.org

ぽよぴんアート2019

ぽよぴんアート2019について

日時：2019年10月5日（土） 14:00～18:15

会場：東京都千代田区麹町中学校（武道館）

参加人数：児童20名程度

※ダウン症のある児童とない児童を半数ずつ

参加費：1家族あたり1000円

ファシリテーター紹介



中津川 浩章

画家、美術家、アートディレクター

記憶・痕跡・欠損をテーマに自ら多くの作品を制作し国内外で個展やライブペインティングを行う一方、アートディレクターとして障害者のためのアートスタジオディレクションや展覧会の企画・プロデュース、キュレーション、ワークショップを手がける。「できないことからつながる社会」を目指して福祉、教育、医療と多様な分野で社会とアートの関係性を問い直す活動に取り組む。障害者、支援者、子どもから大人まであらゆる人を対象にアートWSや講演活動を全国で行っている。2012～14及び2016「埼玉県障害者アート企画」展、2016「ビッグ・アイアートプロジェクト」（国際障害者交流センター）、社会福祉法人みぬま福祉会・工房集ほかのアートディレクションや、川崎市岡本太郎美術館「岡本太郎とアールブリュット」展のキュレーションに携わる。NPO法人エイブル・アート・ジャパン理事、NPO法人アール・ド・ヴィーヴル理事、一般社団法人Get in touch理事。

タイムスケジュール

13:30

受付開始

14:00

第一部 ワークショップ

ファシリテーター：中津川 浩章

今回は昨年に引き続き第2回目、前回と連動させるクリエイティブコネクションによるワークショップ。前回描いた大きな絵を切って破いてコラージュしてグループワークにより「ワンダーワールド」をつくります。

アートワークショップによりダウン症の子供たちと医学を学ぶ学生さんたちとを言葉はもちろん、行為、表情、仕草など言葉以外の感じ合いを通じてさまざまなコミュニケーションを体験しています。

感じ合うことはまずさまざまなコミュニケーションの出発点です。

不自由さから見える世界により、視野を広げ、感じ合いその向こうにある尊いものを探っていきます。

16:00

第二部 子供との交流会

第1部の講師を務めた中津川氏と、ダウン症のある人たち、そして医学生と一緒に、アート作成で感じたことを振り返ります。後半は話題を特に決めず、医学生がダウン症のある人たちと直接語らう場にしたと考えています。

17:15

第三部 親との交流会

医学生が当事者との交流をした後、彼ら彼女らを育ててきた親にさまざまな質問を投げかけます。将来医療の現場に立ち、必ず障害のある当事者とその家族に接する医学生たち。胸襟を開き合える場で、家族の持つ率直な思いを知る大切な機会にしたいと思っています。

18:15

記念撮影・イベント終了

「ぽよぴん」とは？

IFMSA-Japan（国際医学生連盟 日本）が行っている、障がい者に対する偏見・差別・冷遇をなくすことを目指すプロジェクトで、「Project for Overcoming Your and Our Prejudice and IN hospitality against challenged people」の頭文字です。

主催団体

IFMSA-Japan

非営利・非政治の国際NGO、国際医学生連盟を母体とし、「すべての医学生がグローバルヘルスのために団結し、将来の医療において地域、そして世界で活躍できるリーダーを育成する」ことをVisionとして活動しています。

ホームページ：https://ifmsa.jp

NPO法人アクセプションズ

2012年に日本で初めて「パティウォーク」を開催し、毎年東京都内でパティウォークを開催しています。ダウン症について一人でも多くの人に知ってもらい、誰もがそのらしく暮らせるインクルーシブな社会の実現を目指して活動しています。

ホームページ：https://acceptions.org